

### 3. 五感（視覚・聴覚・触覚）への対応

#### 視覚

#### （1）カードで指示する

耳からの「〇〇しなさい」という指示は、届きにくようです。「しゃべりません」など、指示を端的にカードに書いて見せます。聴覚よりも、視覚へ訴える方が、理解しやすいです。よく使う指示について、あらかじめカード化しておきます。

#### （2）指示は、動作を交えて伝える

手話のような動作によるサインを交えて、指示を伝えます。口に人差し指を当てて「しーっ」と、喋らないことを伝えるように、手の動きによるサインと発声を同時に用います。このような動作を交えて伝える方法を体系化したものに「マカトンサイン」があります。

#### （3）忘れ物はカバンの内側に紙を貼る

何度言ってもノートや教科書など、必要な持ち物を持ってこられない子がいます。まずは、予定帳の持ち物欄に、連続5日間ほど赤鉛筆で「理科ノート」などと書かせます。それでも持ってこないときには、カバンの内側に紙を貼ります。

藁半紙にマジックで大きく「理科ノート」と書かせ、セロテープで貼り付けます。カバンを開けるたびに、この紙を目にすることになるので、持ってくる物に気づくことができます。

#### (4) 自分の持ち物にシールを貼る

物の管理が苦手で、あちらこちらに落としてしまう子がいます。名前が書いてあればいいのですが、名前は基本的に書きません。誰の持ち物かを見分けるために、本人や保護者の了解を得て、持ち物にシールを貼ります。赤・青など、専用の色を決めておけば、色を見ることで、誰のものか見わけがつかます。

#### (5) 指示は黒板に順番に書く

口頭で、指示を一度に出しても、子どもたちは頭に入りません。最初に指示されたことをしたら、次は何をして、その次は…、のように一つ一つを順番に伝える必要があります。例えば「テストを出す」→「予定帳を書く」→「読書をする」など黒板に手順を示します。

聴覚

#### (6) 耳栓を用意する

音に過敏な子がいます。大きな声で騒がれることを嫌います。耳栓を用意して、イライラしたときに使いように渡しておきます。

#### (7) 音楽の授業は免除する

音に過敏な子は、音楽の授業を嫌がることがあります。特に、器楽の練習時には音が入り乱れ、苦痛でさえあります。無理に音楽の授業に参加させずに、静かな教室で過ごしたり、図書室で過ごしたりすることを認めます。担任が空き時間であるなら、本人とコミュニケーションを図るよい時間となります。

## 触覚

### (8) 「むにゅむにゅ」を握らせる

風船の中に小麦粉や片栗粉を入れたものを用意します。握った感触が、むにゅむにゅして、心地よいです。子どもが興奮したり、泣きそうになったりしたときに、これを握らせると気持ちが落ち着きます。

作り方は、底を抜いたペットボトルのふた部分に風船をはめて、粉を入れていきます。風船は、1日膨らませておくと粉が入りやすいです。小麦粉よりも片栗粉の方が、やや硬めの感触です。

### (9) スライムで遊ぶ

PVAのりで「スライム」を作ることができます。子どもたちは、このぷよぷよした感触が大好きです。ロング昼休みなどの時間を使って、スライムを作り、できたらビニール袋に入れて持ち帰らせます。スライムのぷよぷよした感触で、気持ちが癒やされているようです。

### (10) 机の中に触れるもの貼る

常に何かを触っていなければいけない子に対して、机の天板内側に、触れるものを貼り付けます。

例えば人工芝などのマットがあります。机の中に手を入れて、触ることで気持ちが落ち着きます。